

## 2 半田市の概況

### 2.1 半田市の位置/広域交通網

本市は、名古屋市の南、知多半島のほぼ中心に位置しており、名鉄河和線とＪＲ武豊線の鉄道２路線により名古屋市と結ばれています。また、知多半島の各都市や名古屋市と連絡する知多半島道路や南知多道路、中部国際空港へ連絡する知多横断道路があり、半田中央ジャンクションにより自動車専用道路が交差しています。主要な道路としては国道 247 号、国道 366 号の２路線、県道は名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線（衣浦トンネル）、西尾知多線等 13 路線があります。また、古くから衣ヶ浦を背景とした海運業や醸造業等で栄えた臨海部には衣浦港が整備されており、陸・海・空の広域的な物流の利便性が高い都市となっています。

その他に半田税務署・名古屋地方検察庁・名古屋地方裁判所・名古屋法務局・半田警察署・愛知県知多総合庁舎・愛知県半田保健所等の国・県の施設や第３次救急医療機関である知多半島総合医療センターが立地しており、知多地域の中核的な都市として機能しています。



〈半田市 位置図〉

## 2.2 人口・スポーツ実施人口の推移

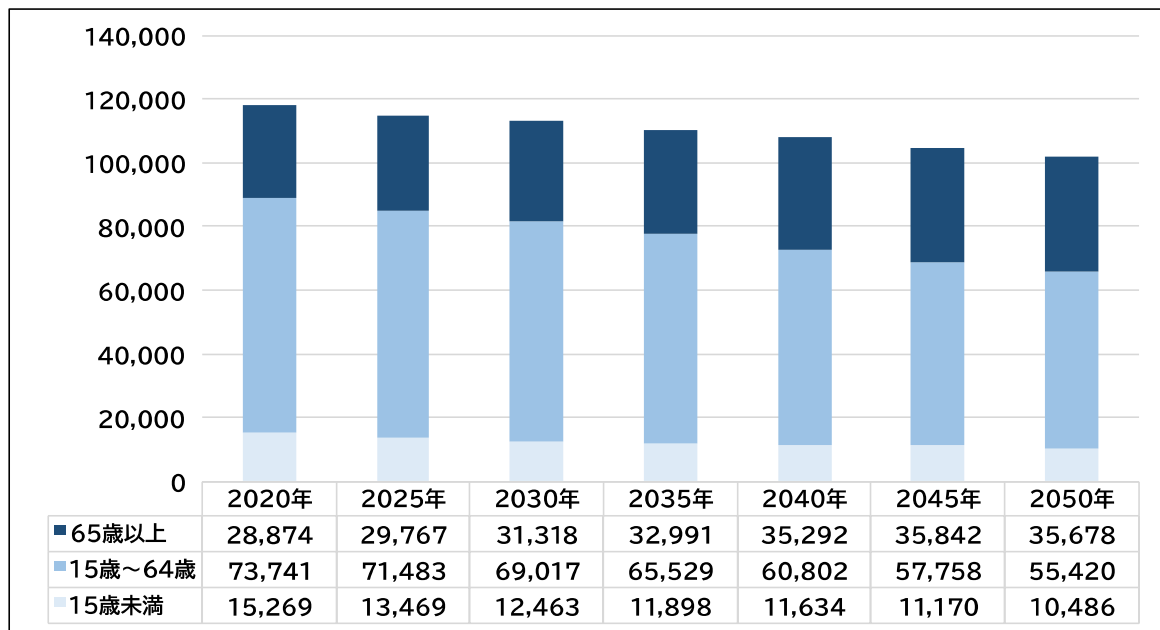
### 2.2.1 人口の推移

国勢調査による本市の人口は平成22年（2010年）まで増加を続けていましたが、住民基本台帳によれば平成21年（2009年）をピークに人口は減少に転じており、令和2年（2020年）の国勢調査の結果では、117,884人となりました。

国立社会保障・人口問題研究所による推計では、令和32年（2050年）には、令和2年（2020年）の117,884人から16,300人減少し、101,584人になることが予測されています。

しかし、第7次半田市総合計画（令和3年3月策定）では令和12年（2030年）の目標人口を118,000人としており、半田市人口ビジョン（平成27年10月策定）では令和42年（2060年）の人口として10万人程度を確保するとしています。

〈将来人口の推移〉



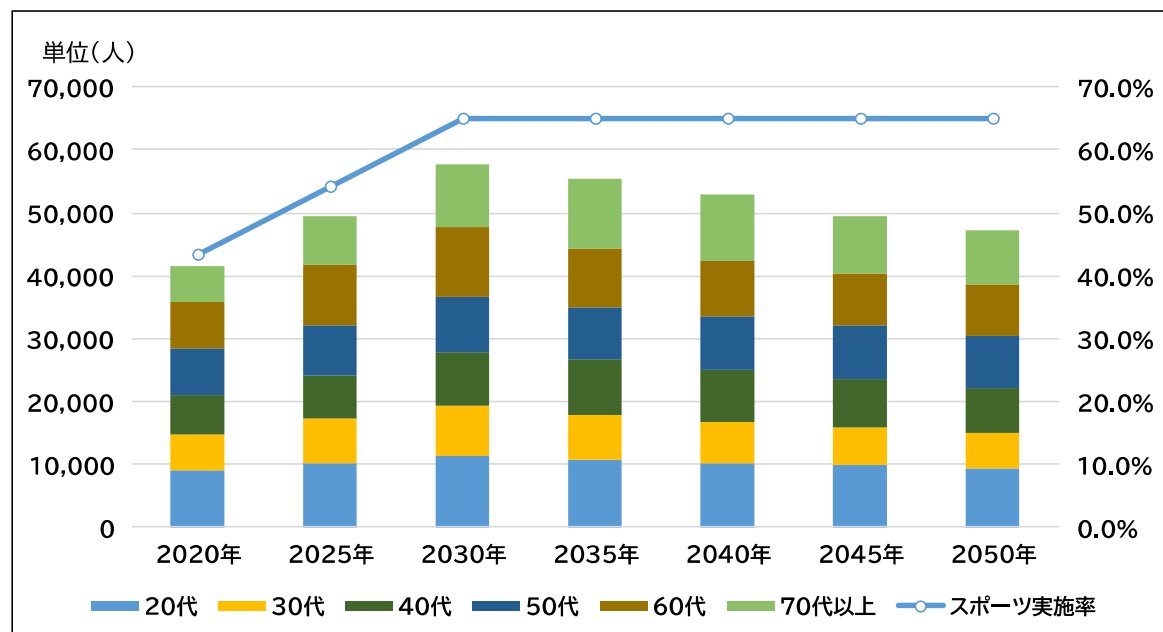
出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

## 2.2.2 スポーツ実施人口の推移

第3次半田市スポーツ推進計画において、成人市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツをする人の割合）を令和2年（2020年）の43.3%から、令和12年（2030年）には65.0%に引き上げることを目標としています。

2030年までにスポーツ実施率を65.0%まで段階的に引き上げ、2031年以降はその割合を維持すると想定した場合において、本市の週1回以上スポーツをする成人人口は2030年の57,725人をピークに減少していくことが見込まれます。

〈週1回以上スポーツをする成人人口の推移〉



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
スポーツ実施率	43.3%	54.2%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%
週一回以上スポーツをする成人人口	41,402人	49,405人	57,725人	55,441人	52,775人	49,463人	47,056人

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成

## 2.3 財政（公共施設等総合管理計画（令和4年5月改定）より）

### 2.3.1 歳入

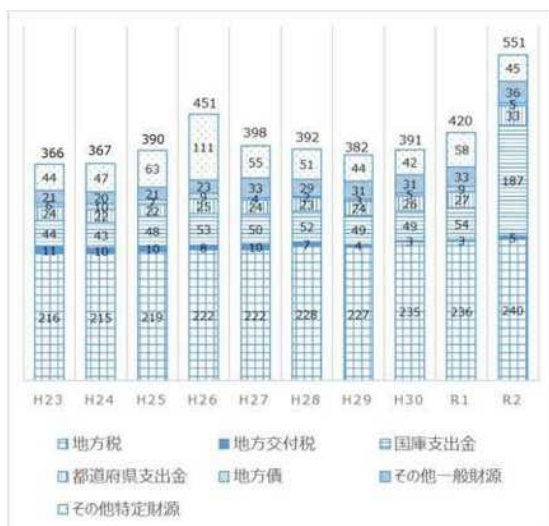
普通会計における過去10年間の歳入決算を見ると、新庁舎建設事業や半田赤レンガ建物整備事業等の大型事業が集中した平成26年度と新型コロナウイルス感染症対策を実施した令和2年度を除けば、やや増加傾向で推移しています。

### 2.3.2 歳出

普通会計における歳出の推移を性質別に見ると、扶助費が増加傾向であり、今後も、高齢化の進行等による増加が見込まれるため、義務的経費の増大が懸念されます。また、投資的経費を見ると、平成26年度に新庁舎建設事業、半田赤レンガ建物整備事業等の大型事業が重なったため、97億円と大きくなっています。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業費等の影響で補助費等が大幅に増加しています

〈歳入決算額の推移（単位：億円）〉



〈性質別歳出決算額の推移（単位：億円）〉



出所：公共施設等総合管理計画（令和4年5月改定）